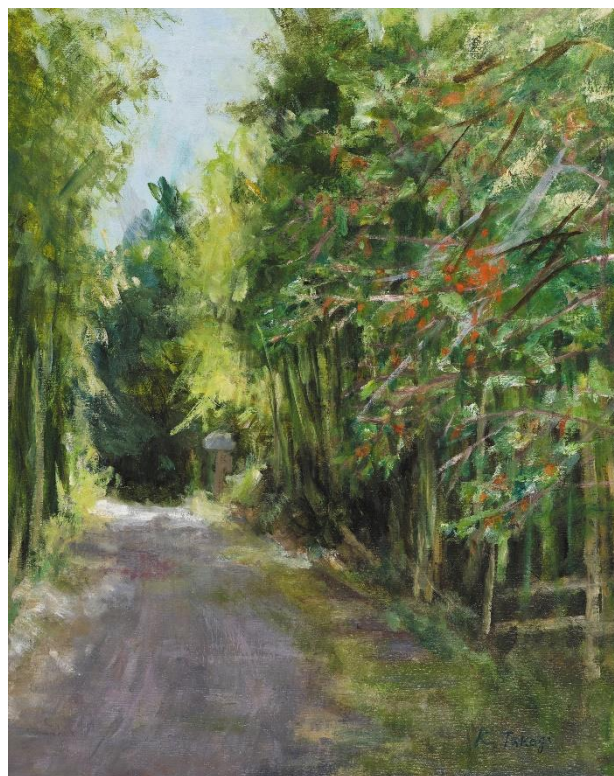


京田辺市長賞

秋立つ（油画）／高木勝枝（京田辺市）

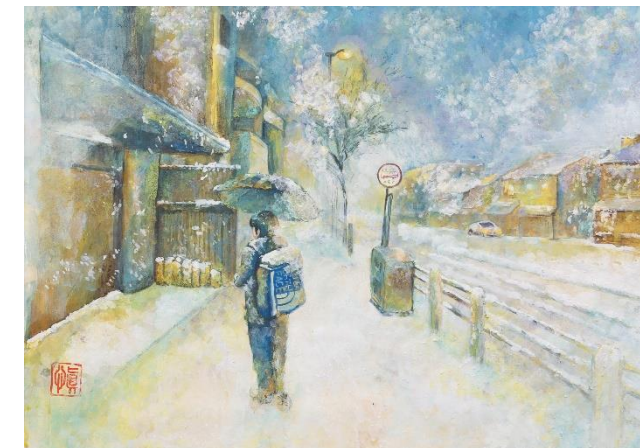
カレンダーでは秋なのに秋の気配などまったくなく、暑いと友と言いながらのウォーキング。だが気づけばまわりではセミの声がやさしい虫の音に、目をやれば木の実もいろずんできていました。これからは風にあたりながら、田の畔道を歩いてみようかなと思いながら描きました。



奨励賞

蒼い朝（日本画）／近江慎子（京田辺市）

友人が撮った写真がとても美しく魅せられました。まだ外灯が消えない冬の早朝、雪の中をバス停に向かう息子を見送りながらの一枚。写真の中に感じた、冷たくて透明な朝の空気感が出せれば、と思いながら描きました。



奨励賞

たわわに実る渋柿（水彩画）／
北村長哉（京田辺市）

地に着くほど生った渋柿が夕日に映える普賢寺川沿いの風景です。いつも通る散歩道ですが、その日は見事に夕日に映えていました。その記憶が消えぬうちにと・・・作製しました。

優秀賞

表情豊かに（油画）／千々岩こずえ（京田辺市）

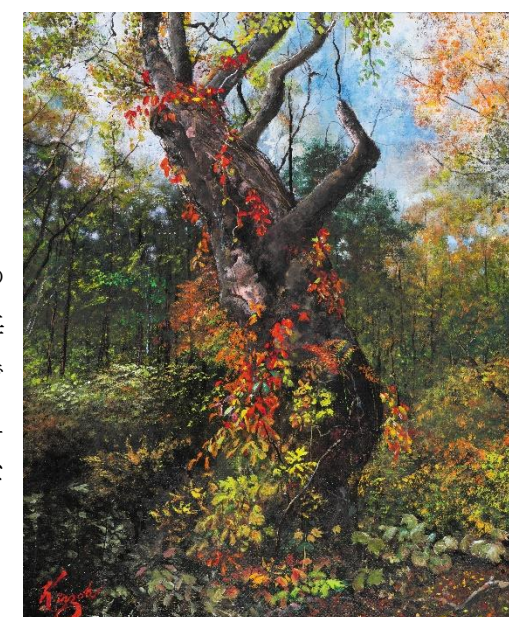
念仏寺は祈り、笑い、肩を組み、または酒を酌み交わすなどの様々な羅漢さんの世界。静かで厳かな中にも苔むす古びた羅漢さんの素朴でユーモラスな表情を表現できればと思い描きました。



奨励賞

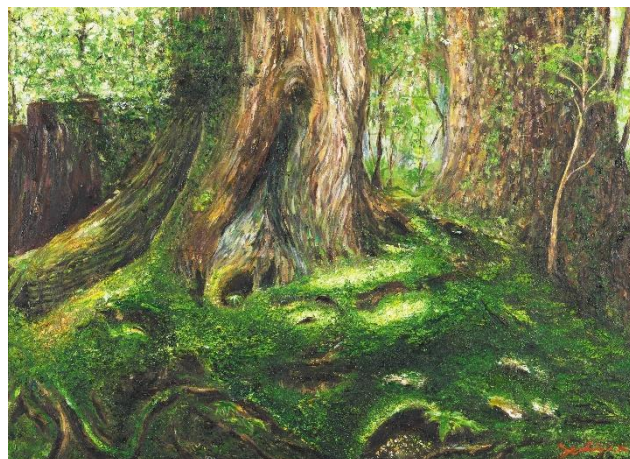
森の美人（油画）／北川欽造（京田辺市）

数年毎に青森県八甲田方面へ取材に行きます。八甲田山麓のブナの森を散策し温泉に浸り、森の空気を浴び活力を取りもどします。森の美人は毎回その装いを変えるのを観察するのが楽しみです。古木ですが、いつまでも凛と佇み小生を迎えてもらえば・・・と願って止みません。そんな古木の今日までの歴史を想い画いた次第です。



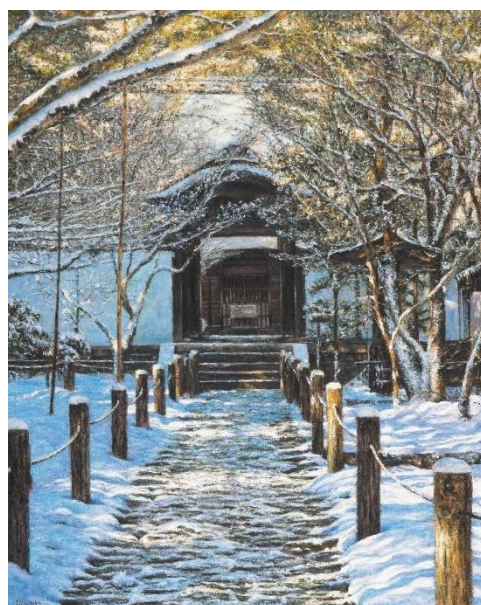
奨励賞

奥之院大杉（油画）／木下八千代（木津川市）
高野山奥之院参道の大杉林は樹齢200～600年以上といわれる。大杉群に会いに年数回訪れる。その度、私にパワーを与えてくれ、そして感謝の念を抱かせてくれる。



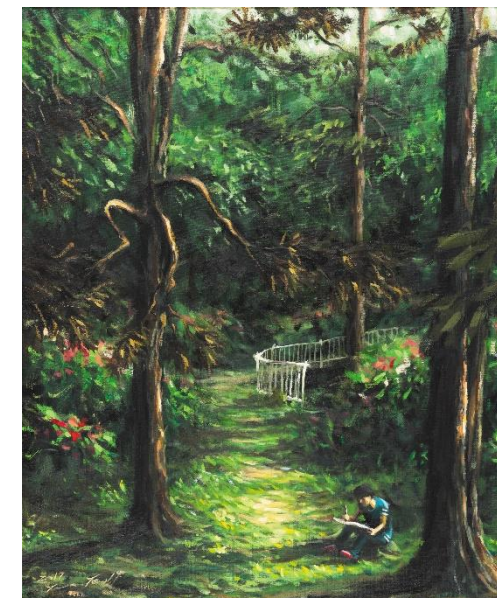
奨励賞

雪の酬恩庵（油画）／中島浩（京田辺市）
前日の荒天は嘘のように晴れ渡り、一休寺の境内には、早朝から眩しいくらいの陽射しが降り注いでいました。



奨励賞

画家の森（油画）／山下義文（京田辺市）
特に観光名所でもない、何げない森の中で、その画家は、心ひかれる何かを見つけた様である。何の特色もない風景でも、素晴らしい作品に仕上げてしまう画家の才能に驚きを隠せない。



U18審査員賞

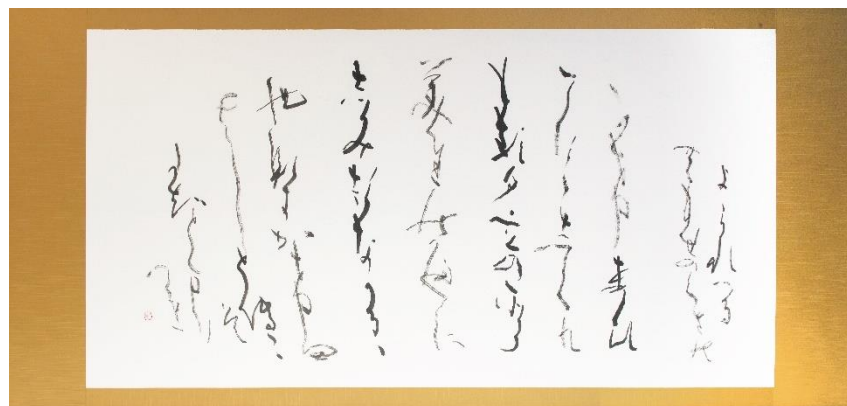
水溜まりと鯨（アクリル画）／尾面亮祐（京田辺市）
水溜まりを夕暮れの海としてイメージし、そこに鯨を描き、非現実的な世界観を作りました。



講評

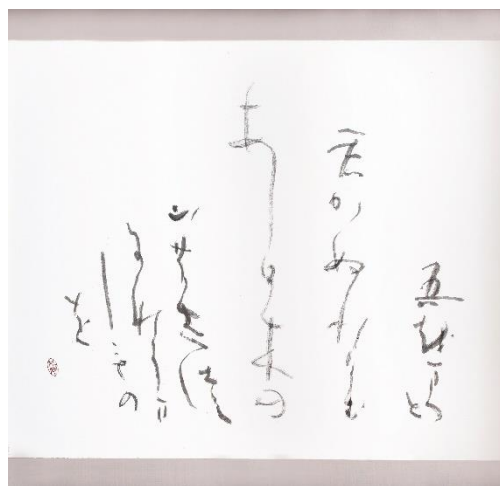
公募展の審査では一般に、派手なものも大人しめなものも、具象も抽象も超現実も等しく見なければならないことが多く、難航することが多いのですが、この展覧会では最初から最後まで穏やかな気分で作品を見ることができました。自然の美を捉えたものが特に目を引きましたが、古い街並や現代の都市風景、社寺など文化遺産を描いたものも好ましく思われました。そうした画題選択には、京に近い街ならではの「眼」の良さが表れているようにも感じられました。表現することへ意欲が技術の高さと結び付いた作品が少なくないのも、この展覧会の魅力となっています。

審査員 梶岡秀一



京田辺市長賞

夕立の空／田中由美（京田辺市）
新古今和歌集の西行法師の歌を二首選び、夏の暑さの中で、木陰でひと休みしたり、夕立になりそうな空模様に涼しさを感じたりする様子を思いながら制作しました。



奨励賞

あしびき／水谷雅舟（八幡市）
字数が少ないので作品のメリハりに苦勞致しました。

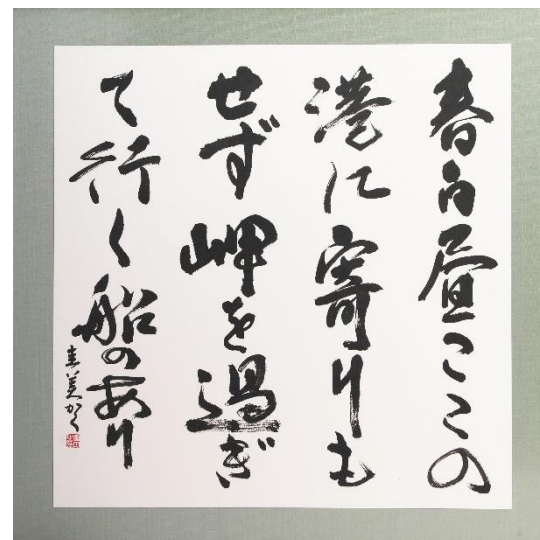
講 評

書は書き手のその時の状態があらわれるものです。一人の人の長い人生のある時のその一瞬を切り取ったものが書作品だという言い方も出来ると思います。

もちろん書を人生の友とし、長く筆を執ることを常としている方は、技術にすぐれ、一本の線の中にある生命感も躍動してくれるものなので、ベテランの作品にはより多くの鍛錬とより多くの書き手の反省が込められているものと考えることが出来ます。

さて、今年もよい作品が多数寄せられました。その中でも、市長賞作品は墨量による潤渇にすぐれ、造形にも無理がなく構成も落ち着いたものでした。優秀賞作品は、漢字とかなのバランスもよく豊かな線質の良品で、奨励賞に選ばれた作品は中央の造形を左右で引き締めるという意味で、落ちついた仕上がりとなりました。

審査員 日比野博鳳



優秀賞

若山牧水全集・別離／富田圭美（城陽市）
リズム良く力強い作品に仕上がるよう心がけ制作しました。

講 評

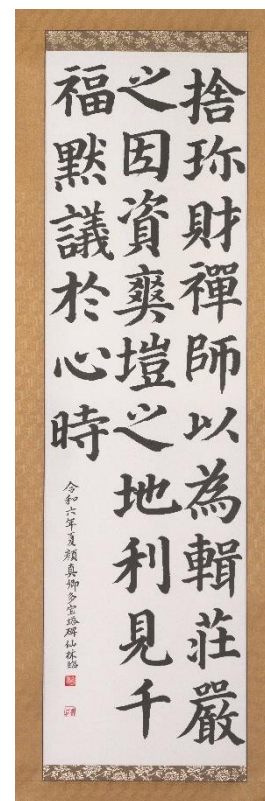
（優秀賞）

線の冴えが魅力の作品である。じっくりと深く墨の入った本作は、行の流れの美しさと相まって迫力ある仕上がりとなっている。前半の流麗さと後半の変化も対称的で楽しい構成で本作の見どころとなった。

（奨励賞）

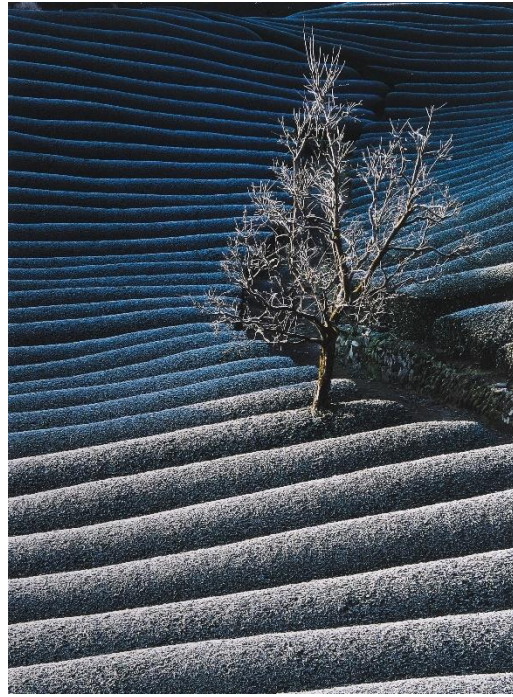
顔真卿の楷書の特徴をしっかりと捉えた秀作である。起筆から送筆への動きや象徴的な収筆も丁寧で見ごたえがある。又、周到に計算された三行の構成も見事で、余白も美しく残されている。

審査員 尾西正成



奨励賞

顔真卿多宝塔碑臨書／
天野仙林（京田辺市）
書の経験は浅く、人様の書いたのを写す（臨書）のが精一杯です。早く自分の独創的な書がかけられるようになればよいと思いながら制作しました。



京田辺市長賞

待ち遠しい春(和束町)／田中伸佳(京田辺市)
刈込まれた茶畑に薄化粧の霜が陽を受け静寂の中、キラリと春を待っている。



優秀賞

京都芸術花火2024(京田辺市)／
岩崎一郎(京田辺市)

「京都芸術花火」淀は5年ぶりの開催であった。どこから狙うかがポイントで、選んだ場所は私の住居近くでした。60分間ノンストップで約1万3500発の花火が上がるというので、カメラ設定は望遠レンズ450mmをしっかりと固定し、バルブ、プラス手シャッターを組み合わせました。非合成写真です。



奨励賞

夏の夕暮れ(京田辺市)／田中和人(京田辺市)
私の、朝夕の日課は自宅周辺のウォーキング。夏の日々の夕陽を背景に、赤いカンナが咲き、ツバメが飛んでいます。田んぼの若い稲と、新名神高速道路も見えます。豊かな自然と便利な生活に感謝しながら今日も歩きます。

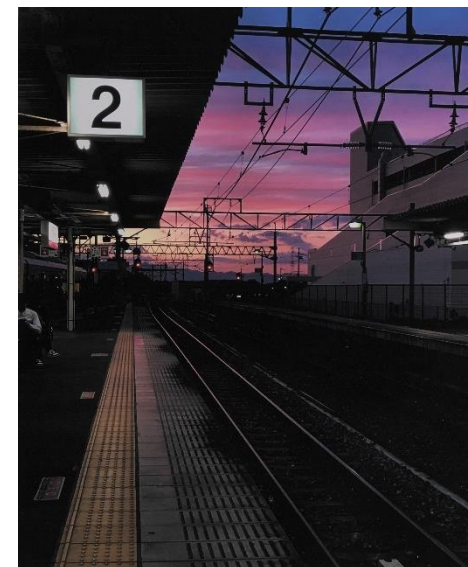


奨励賞

アーン(京田辺市)／寺澤淳(京田辺市)
巣立して間のない野鳥「エナガ」の幼鳥が母親に食べ物を要求して「アーン」と口を開けた。それに応じた母鳥が餌を与える瞬間を撮影しました。

講評

今年から審査を担当致します橋本です。
今回の出展作品を見ますと、自然風景、ネイチャーの作品が多く、人物、デザイン等が以外に少なく感じました。
対象に対し何を見せたいのかを良く見て審査させて頂きました。
光の条件を良く観察し、絶好の瞬間をとらえた作品は、普段見慣れたところでも見栄えがして、高得点を入れさせて頂きました。
地元の風景の作品(京田辺市内)をもう少し沢山見たかったです。
市長賞の作品は茶畑のよくある作品ですが、切り取りが抜群でしかも光がバックは暗く主役が浮き上がり見事です。花火は瞬間のタイミングを上手く捉え、良い構図に仕上げています。



U18 審査員賞

夕焼けの京田辺駅(京田辺市)／
平松愛菜(京田辺市)
下校中に、ふと空を見上げると、美しい夕焼けが広がっていたので写真に収めました。全くカメラの知識もない素人ですが、きれいに撮れたので出品してみます。